

## 委員会等の会議録

1 会議名	第1回 愛南柑橘営農環境改革推進協議会	
2 議題	(1)柑橘加工施設整備延期と委託搾汁による販路開拓の現状について (2)柑橘営農環境改革推進事業に関する意見交換について (3)その他	
3 開催日時	令和3年11月30日(火) 13時30分から16時00分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁 3階 大会議室	
5 傍聴者数	0人	
出席者		
6 委員氏名	吉田 浩、下田 健二、小野山 純平、原田 和生、向田 悟士、孝野 覚也、酒井 真理子、山木 圭一、金繁 克則、松田 昌治、西崎 梅一、木村 勝彦、菊池 和宏、秋山 宏幸(高石委員の代理)	
7 担当所属	所属名	農業支援センター
	担当職員 (職・氏名)	課長補佐 岸本 貴士 会計年度任用職員 中本 健仁
	所属名	農林課
	担当職員 (職・氏名)	課長補佐 近平 高宜
8 その他の出席者	所属名	
	出席者 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
岸本補佐	<p>(開会挨拶)</p> <p>皆さまにおかれましては、年末の御多忙の折、御出席頂きましてありがとうございます。</p> <p>御承知のとおり、これまで検討してきた柑橘加工施設整備の延期に伴い、運営組織の設立も延期になりました。将来的には、この組織が自主園地や作業受託など生産現場への支援も含め、地域課題に貢献する計画でもあったわけですが、当面は運営拠点を持たず、委託搾汁によるテスト販売の動向で方向性を模索していきます。</p> <p>今回、原点に立ち戻り、10年後も維持発展できる愛南柑橘産業の在り方について、意見交換ができればと考えていますので、ぜひ忌憚のない御意見を頂ければと思います。</p>
岸本補佐	<p>それでは、議事に入ります。議題1、柑橘加工施設整備延期と委託製造による販路開拓の現状について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (近平補佐)	<p>本議題については、先般、委員の皆様にはヒアリング形式で個別に報告させて頂きました。改めて、加工施設整備の意図、延期になった背景について説明させて頂きます。</p> <p>まず、柑橘加工施設整備の意義についてです。平成28年度に皆さんとともに作成した、「愛南柑橘営農環境改革プラン」ですが、資料P4がその体系図になります。ここで、大きな将来像「持続可能なまちづくりを支える愛南柑橘産業の確立」を目標に、取組の方向性として、①担い手の確保、②インフラ整備の推進、③6次産業化、ブランドの確立を軸に、優先的に取り組むべき事業として、7つの重点項目を立て、事業展開を図ってきました。柑橘加工施設整備についても、その1つに位置付け、令和2年度までに基本計画、実施設計を作成しました。</p> <p>資料P1に戻りまして、基本計画の抜粋です。特に、愛南町の特徴として、共選、個選と様々な生産者がそれぞれに展開されている背景もあって、まだ本町で有していない柑橘加工施設の整備により、新しい産業としての拠点になる位置付けでした。</p> <p>柑橘加工施設の必要性について資料の文面を読み上げます。</p> <p>「愛南柑橘産業の底上げには新たな取組が必要。特に生果への需要低下が進む中、加工品への需要は、高まっているという背景や、若手を中心に加工施設への利用意欲が高く、最大541tの集荷が見込めることを考慮しても、加工施設整備に向けた具体</p>

発言者	発言内容
	<p>的な検討を進めていく意義が大きいことが意向調査の結果から明らかとなった。特に高齢化や継承不可等の離農が及ぼす産地維持の危機は、待ったなしの状態であり、農家の所得向上、経営維持を図るためにも、新しい付加価値、新ブランドへの挑戦を図り、多様な生産者をまとめる新たな取組が必要である。」です。基本計画に沿って、令和2年度末に実施設計を完了しました。</p> <p>産地の持続性確保には「生果」、「加工」は、両輪で推進していく必要があります。河内晩柑については、現在引き合いも強く需要低下は見られませんが、生果の購入者が高齢層であることは事実です。そのため、幅広い年齢層をターゲットに加工品を展開し、加工はその生果の需要を喚起してあげるものだと考えています。</p> <p>加工施設がめざすべき基本方針は、図示する3つのステップを踏みます。最終的には、地産外商として、加工場が自走し、町内へ利益を還元できる仕組みを創造していく方針でした。</p> <p>次に資料P2です。整備について、農林水産省の令和4年度農山漁村振興交付金(事業費の1/2補助)を活用する計画でした。要望に当たり、活性化計画や施設整備の具体案を示す必要があったことから、必要最低限の整備費となる遊休施設(旧学校給食センター)の活用を前提に、町単独事業として実施設計を委託し、運営組織の設立と並行して準備を進めてきました。設計費は704万円、予定工事費は5.5億円で、キャタピラ搾汁機(スライサー付)、充填設備、冷凍冷蔵庫、二次加工室・品質管理室、コミュニケーションスペースなどを計画していました。</p> <p>延期に関する背景として、令和3年2月に行われた令和2年度議員全員協議会報告では、柑橘加工施設の運営組織を愛南町とJAえひめ南との共同出資にて設立する予定でありましたが、令和3年度当初予算の編成までに、JAえひめ南から出資に係る回答を得られなかったことにより、施設整備工事の予算化を1年延期しました。</p> <p>令和3年8月に、JAえひめ南からは組合長、専務、町からは町長、副町長が出席して協議を行い、JAえひめ南から出資に係る回答は得られぬままとなりました。町としても、新型コロナウイルスの影響が長期化により市場の動きが鈍化していることから、当面は委託搾汁(㈱クリエイト伊方、三原村農業公社)により、柑橘加工品のテスト販売(並行して河内晩柑プロデュース事業、ニーズ調査、欧州輸出事業等を実施)を行うことで販売先</p>

発言者	発言内容
<p>(事務局) 岸本補佐</p>	<p>の確保を進めながら、加工施設整備の実現をめざすこととなりました。</p> <p>次に委託搾汁によるテスト販売の現状について説明します。柑橘加工施設の1年延期を踏まえ、農業支援センターで委託搾汁によるテスト販売、どれだけニーズがあるのかを調査するため、果汁と果皮によって販路開拓をすることになりました。</p> <p>資料P3になります。原料約50t(マルエムフルーツアイランドから30t、南宇和選果場から20t)から果汁及び果皮を取得しました。委託搾汁は、(株)クリエイト伊方(原料42.6t、果汁15t(加熱)、果皮23.5t(スライス処理無))と三原村農業公社(原料6.8t、果汁1.8t(非加熱)、果皮2.2t(スライス処理済))の2か所で行いました。</p> <p>これらを用いて、大手飲料メーカーや菓子メーカーをあたりました。正直、予想を上回る苦戦を強いられまして、果汁は0.8tの5%程度しか売れていません。商品の発送も入れて58万円です。果皮は引き合いが強くて、例えばエッセンシャルオイルをつくる松下産業という会社が松前町にありますけど、香りが良いとの評価で、単価は12円/kgです。ほぼ全量買い取っていただく約束で、量的には16tを販売しております。あと、河内晩柑の機能性に目をつけた伊方サービス(株)です。こちらは、パウダーの2次加工に利用し、2.2t販売しました。スライサー処理をしているため、100円/kgです。</p> <p>今後の見通しとしては、果汁は酒造メーカー2社と話が進んでいます。1社は早ければ11月中旬に採用の可否が決まり、採用されれば10トン強の需要が見込めます。また、愛媛県のブランド戦略課と連携して進めている欧州輸出についても、果汁の販路として期待できます。果皮については、全量販売予定で、今後も更なる量の需要が見込まれます。</p> <p>あと、資料には委託搾汁に係る経費について掲載しています。</p>
<p>岸本補佐</p>	<p>説明が終わりました。質疑はありますか。</p>
<p>孝野委員</p>	<p>果汁の販売が少ないように思いますが、コロナの影響はありますか。</p>
<p>(事務局) 岸本補佐</p>	<p>聞取りによると、外食需要が停滞しているので、新たな商品開発が進まない印象は受けています。また、そもそも経済停滞</p>

発言者	発言内容
原田委員	<p>の影響は受けていると思います。</p> <p>果皮はどんな器量でも良いのでしょうか。</p>
(事務局) 岸本補佐	<p>食用ではないオイルは、真っ黒でも同じ量を採れるので問題ありません。パウダーも同様で、7月の見栄えの悪い果実を絞ったのですが、外観についての意見はなく買ってもらいました。</p>
小野山委員	<p>何月から何月までの果実ですか。</p>
(事務局) 岸本補佐	<p>マルエムフルーツアイランドが4月中に5、6回で、大体5t弱ぐらいを搬出させていただいています。南宇和共選が5月中に4回ですね。これも大体5t弱ぐらいです。果汁の糖度等は、毎回分析してもらっています。それも毎回規格書を作ってメーカーに提示しています。</p>
西崎委員	<p>果皮は肥料にならないのでしょうか。</p>
(事務局) 近平補佐	<p>肥料については、JA えひめ南が所有されているたい肥センターの改修工事を今年度予定しており、検証しながら進めたいと思います。しかし、農協側の話では、現状として土壌改良材ぐらいにしかならないのではとのことでした。</p>
岸本補佐	<p>次に、議題2、柑橘営農環境改革推進事業に関する意見交換を行いたいと思います。今回、加工施設整備の見直しや、今後の柑橘プランの在り方を踏まえ、先に委員の皆様に対し個別にヒアリングをさせていただきました。改めて、共選、個選と様々な生産者がおられる中で、産地としての一体的な活動が難しいと感じているところであります。</p> <p>意見交換につきましては、これまで行政主導で発言者を指名させて頂くなどして進めてきましたが、意見交換しやすい環境づくりを考え、今回、JA えひめ南、愛南地区の代表理事を務められておられる孝野委員に、ファシリテーター役を事前をお願いさせていただきました。孝野委員におかれましては、御多忙の中、快くお引き受けいただきありがとうございます。委員の皆様におかれましても、将来の愛南柑橘のため、活発な御意見をいただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、先日のヒアリング結果について、事務局から説明</p>

発言者	発言内容
<p>(事務局) 近平補佐</p>	<p>願います。</p> <p>資料P 5になります。ヒアリングに当たっては、11月初旬から中旬にかけて、各委員に対し個別訪問させていただき、本音を交えて話ができたと実感しております。</p> <p>ヒアリングについては、先ず、加工施設整備の延期に関する説明を行ったあと、加工施設整備延期に伴い、運営組織の設立も延期になったことに触れました。将来的には本組織が自主園地や作業受託など生産現場への支援も含め、地域課題に貢献する計画でもあったわけです。当面は運営拠点を持たず、農業支援センターが主体となって委託搾汁によるテスト販売、販路開拓で方向性を模索していきます。</p> <p>また生産人口も減る中、10年後も維持・発展できる愛南柑橘の推進活動を続けていくための方策について、柑橘プランの軸である次の3点についてヒアリングをさせていただきました。</p> <p>①意欲ある生産者を育てる「意欲ある担い手の確保」  ②柑橘営農を支える「インフラ整備」  ③愛南柑橘の価値を高める「ブランド化・六次産業化」</p> <p>資料は、ヒアリング結果を掲載しています。「加工施設整備の当面延期と委託搾汁による販路確保の実践について」は、方向性の切替えについて全委員より了解をいただきました。</p> <p>仕方ないとの意見が多くありました。特徴的な意見として、「加工場はそもそも不要と思っている。手遅れだし、やって欲しくない」、「JA えひめ南に対する意見」、「必要性を訴えてきた、残念、今やらないとジリ貧になる。仮に失敗したとしても重要な成果になる」、「先に販路を押さえての方が確実」などの意見がありました。</p> <p>次に資料P 6からになります。意見は次の通りです。</p> <p>①意欲ある生産者を育てる「意欲ある担い手の確保」  (担い手確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファーマーサポート事業は常時4、5名受入れ可能</li> <li>・系統は新規加入者を歓迎するも、育成できる体制はない。</li> <li>・今後、後継者がどのぐらいいるか。延命措置はできても、廃れていくのは必然。2030年問題(高齢化と農地維持)</li> <li>・魅力ある作物、収入額をきっちり示せば人を呼べる。近年、農業への関心高まっておりチャンス</li> <li>・一部法人は、おためし就農や農の雇用事業など、就農希望者の受入に対し前向きな意向</li> </ul>

発言者	発言内容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在的な担い手として、地域おこし協力隊や定年世代（労働力確保）</li> <li>・シルバー、季節アルバイト、外国人労働者は厳しい(単価／受入施設／収穫時期の分散)。系統内でも労働力の連携ない。潜在的な労働力としてFS研修生、主婦層（園地継承）</li> <li>・系統は組合間でのマッチングを優先。条件不利地は収益性低いため、そもそも貸付対象としてない。人の相性(信用性)も重要</li> <li>・JAのファーマーサポート事業。リタイア園地など中間管理(施肥や農薬など最低限の管理が必要。コスト／人材不足)が厳しいため借受けできない。研修生へは、修了のタイミングで園地を充てる方向で対応したい。</li> <li>・貸出可能な園地をリスト化し、農業委員会でタイムリーなマッチング体制を構築して欲しい。</li> <li>・果樹の場合、貸借期間が長期に及ぶため、双方に覚悟がいる。また、利用権でも長年投資をしているため転貸もしにくい。</li> <li>・収益性、生産性の良さが肝。条件不利地は紹介しにくく淘汰されるだろう。以後は基盤整備や平坦地転用を希望（その他）</li> <li>・柑橘苗代の補助希望</li> </ul> <p>②柑橘営農を支える「インフラ整備」 (加工施設等インフラ全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延期に伴う反響が少ない(生果&gt;加工、愛工房を使うから)。</li> <li>・共選の大規模な設備更新は厳しい(選果機等)。</li> <li>・人手減少。防風林管理大変。省力化など園地の生産効率をとにかく上げたい。基盤整備により代替農地を確保して欲しい。</li> <li>・町には農地流動化、基盤整備、生産支援を行なって欲しい。</li> <li>・愛媛果試48号への改植意向はあるが限定的。河内晩柑の優位性(収穫分散、木成りストック、愛南という立地、つくりやすさ、省力的、樹勢)は強い。その優位性に気付いていない人も多い。</li> <li>・気候リスクにより生産量減(高温障害、凍害)。当面は、消費者ニーズを伺いながら生産維持と品質向上に注力する。他品目への転換も視野にしたほうが良い。</li> <li>・スマート農業、IT化は、JAが先に実施し、モデル化して欲しい。</li> </ul>

発言者	発言内容
	<p>③愛南柑橘の価値を高める「ブランド化・六次産業化」 (河内晩柑等全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河内晩柑の名称に拘りない。生産量日本一から脱落しても、販路があり影響は少ない。「愛南」ブランドへの想いもない。行政と生産者の想いに乖離はある。多様な生産者がまとまることは当面は厳しい。</li> <li>・愛南ゴールド。町のブランドなので大切にしたい。</li> <li>・美生柑≠愛南ゴールド。単価の差が小さくなっている。</li> <li>・美生柑は、商標登録されているのに、色々な直売所で使われている。マルエムは、責任をもって管理して欲しい。</li> <li>・生果は高齢者の消費傾向。供給バランスが保たればよく、あまり気にしていない。亡くなる顧客も増加しておりその後の販路が続かない。若者にPRできる展開に期待</li> <li>・多様な生産者の拘りにより品質が様々。個選は、小売りメインなので味への拘りが強い。個人ブランドになっている。味の質を上げたい。</li> <li>・近年、小玉が出るため加工原料は集まりにくい傾向</li> <li>・認知度はまだ低い。未食の方への販路開拓を続けて欲しい。ストーリー性を持たせるなど訴求力を上げて欲しい。</li> <li>・木成りにより、中間の等級の単価が上がった。正品についても上げるよう値段交渉できた。</li> <li>・農支センターの愛南ゴールド販売促進部会の活動が有難い</li> <li>・ふるさと納税の活用も最近伸びている。</li> </ul> <p>これらの意見に対し、町として今後どのような展開とするのか。設問を設定しました。お手元の参考資料もたたき台にしながら意見交換ができればと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>①意欲ある生産者を育てる「意欲ある担い手の確保」 (担い手確保)</p> <p>育成について、系統は対応が難しいとのこと。募集等も含めファーマーサポート事業(町、県、JAの連携で実施)を充実化する方向で良いでしょうか(研修修了後は原則、独立自営。JA出荷など制限なし)。</p> <p>また、法人の一部は、農業体験など就農希望者の受入れに前向きな意向でありました。希望者があった場合、紹介しても良いでしょうか。</p>

発言者	発言内容
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>ファーマーサポート事業について、知らない方もいると思いますので、南宇和営農センター長である山木委員より説明頂ければと思います。</p>
山木委員	<p>現在、研修生が3名です。去年は2名が卒業しました。令和4年度は1名の予定のため、現在募集をかけています。ほとんどが柑橘の研修で、ほかにもブロッコリーなど1年間で色々な作物をつくっています。日々、作業を手帳に書いて、自分のモノにしようとしている事業です。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>もし、町外などから新しい研修生があった場合、対応できる人数はどれぐらいなのでしょう。</p>
山木委員	<p>ある程度は対応可能です。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>Iターンで帰ってきて、就農したいという方もたまに見られます。あと法人の受入れとして、小耳にはさんだのですが、吉田農園さんは、担い手育成みたいなことをされているのでしょうか。</p>
吉田委員	<p>具体的なことはないので、全国的にも求人してもいい子が来ないというところで皆悩んでいます。最近あみ出したのが、独立希望で受け入れて、「独立するより、自分の会社でやったほうが儲かるよ」という風に、洗脳するみたいにしたほうがいい人が集まりやすいです。もちろん独立する意志でもサポートはしますが、そういうところで人材を集めたらいいんじゃないかと考えています。</p> <p>そうすると、宇和島の知り合いで、今までだと普通の求人では来なかったけど、同志社大学を卒業して、バックパッカーで世界を旅してきた30歳ぐらいの優秀な方を受入れて現在、教育中とのことです。給料で年収600～800万とかで、就農しても2年とかでそれならダメだろう等、強めに教えていけるメリットもあり、他の社員にも刺激になります。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>県外から就農希望者が来ても、研修先がなければ、いきなり農地とマッチングしたとしても、お金を生むことができない。ワンクッション、給料が出て研修ができるようなら、研修中に園地を見つけることも考えたりします。共選としてはどうでし</p>

発言者	発言内容
金繁委員	<p>ようか。</p> <p>我々の共選では、孫世代の方が何人か就農しています。例えばファーマーサポート事業を修了された方で、家は農家出身なのですが独立就農されました。しかし、生活していくためには、規模が小さいので、共選の指導員等と園地を探しながら、儲けられる形でやっていければと思っています。</p> <p>担い手については、待っていてもなかなか来ませんので、受入れられる状況を作っておくのも大事だと思います。芸能人で農業を始める人もいますし、TV等で大々的にアピールしながら、メディア等を使いながら農業の魅力を伝えるのも良いのではないかと思います。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>実際タイミングもありますし、研修の受入れ制度が整っていないと大変ですね。次の設問をお願いします。</p>
(事務局) 近平補佐	<p>(園地継承)</p> <p>園地継承について、JA えひめ南は、リタイア園地の借入など、中間管理が厳しいとのこと。条件の良い園地は、個人間、系統内で貸借が進んでいます。以前、意向調査を行いました全く反応がありませんでした。しかし、潜在的なリタイア農地は、今後増え続けます。再調査を行う予定はありますが、リタイア農家と借受け希望者(研修修了生などで非農家)のマッチングを促進する方策について御意見をいただきたいと思います。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>園地の継承について、どう繋いでいけば良いでしょうか。山木委員いかがでしょうか。</p>
山木委員	<p>JA えひめ南は、厳しいです。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>園地を増やしている方はどのようにされているのでしょうか。</p>
酒井委員	<p>タイミングにもよります。同じ地域の方から、園地を手放す話は間に人が介することもあれば、直接依頼されることもあります。</p>

発言者	発言内容
(ファシリテーター) 孝野委員	系統など共選ではどうでしょうか。
金繁委員	園地をやめる方については、指導員がマッチングを行っています。しかし、段畑など条件の悪いところは、とっつきが悪いです。やはり平地で作業しやすいところが理想ですね。労働力などについても、人手が高齢化になっているという意見もよく聞きます。農業は、3Kのイメージがあるので、それを払拭できるような条件が示せれば変わってくるのではないのでしょうか。
(ファシリテーター) 孝野委員	小野山委員などは、優良園地など貸付希望が出た場合等の情報収集はしているのでしょうか。
小野山委員	平山は魅力的な園地がありません。すごいスピードで廃れていき、2030年問題どころではないと思います。中山地区においては、上の方の園地は防風林の管理が大変なので、そもそも借受けするはずはありません。下の方の比較的緩い傾斜の園地は、高速道路でとられます。いい園地があったとしても人間関係の問題もありますし。そもそも優良園地については、リタイアするからどうですか、というような事象が起きにくいです。
(ファシリテーター) 孝野委員	分かりました。次の設問をお願いします。
(事務局) 近平補佐	(労働力確保) 労働力について、八幡浜などのみかん産地と比べ、季節アルバイト、外国人労働者の受入れは厳しい(多様な生産者/単価/受入施設/収穫時期分散)との意見でした。労働力は、当面は町内で探すのが現実的だと考えています。町としては、就職支援センターが短期の受入れをしているので、その手法を活用するのが1つ。あと、参考資料に掲載している「愛媛お手伝いプロジェクト」(副業にならない/時給程度の支払い/ボランティアはクーポン)の活用で、町内のワーカーの母数を増やす取組ができれば、現実的になると思います。労働力を町内等で探す取組を強化することについて、意見をいただければと思います。
(ファシリテーター)	労働力が間に合っている方はおられますか。

発言者	発言内容
孝野委員	
委員一同	(挙手なし)
(ファシリテーター) 孝野委員	松田委員など具体的に、外から引っ張って来たとかありますか。
松田委員	近所のツテしかないです。このお手伝いプロジェクトはいいと思います。
(事務局) 近平補佐	このプロジェクトについて、愛南町の農家で活用された方はないと聞いています。知っているけど活用していない方はおられますか。
委員一同	(挙手なし)
(ファシリテーター) 孝野委員	実は登録されているワーカーの中には、愛南町で河内晩柑など収穫したいという方はいるみたいです。
吉田委員	宇和島の後輩の話ですが、本プロジェクトを活用して受入れたそうです。郵便局のおばさんだったそうですが、その方の作業が遅く、またみかんも傷つけたそうで、結果、半分ぐらい山に捨てるという事例もあったそうです。もちろん、いい方もおられると思いますが、どこかで研修させてやるとか踏み込んでやらないと、一緒の労働力というところで不公平性があるかもしれません。
(事務局) 近平補佐	ワーカーの方は、現場に入る前に研修を受ける仕組みだそうです。改善されたのかもしれませんが。
(ファシリテーター) 孝野委員	もし町内で活用できるのであれば手上げしますか。
松田委員	シルバー人材センターと同じようなら厳しいかもしれませんが。副業にならないというところは良いと思います。
(事務局) 近平補佐	ちなみに愛南町でワーカー登録が3名いるらしいです。ワーカーを増やす取組をすれば母体が増えますので、農家の方も登

発言者	発言内容
	録をすれば、もともとある仕組みなので活用できると思います。なお、マッチングは、本部が行うので人の指名は難しいのかもしれない。
松田委員	情報は欲しいですね。
木村委員	保険などはどうなるのでしょうか。
(事務局) 近平補佐	「愛媛お手伝いプロジェクト」の方が、ボランティア保険をかけるそうです。仕組みとしては、例えば1日/人が8時間働くとして、時給は800円扱いなので、農家の方は「愛媛お手伝いプロジェクト」に6,400円/日を払います。5,000円分のクーポンがワーカーに渡り、差額は保険代も含めた中間マージンとして「愛媛お手伝いプロジェクト」が取ります。詳細はホームページの方に掲載されているようです。
菊池委員	あくまでボランティアなので、剪定のような高等な作業は、求められないようです。収穫、サンテがけ、単純作業程度だと思えます。
小野山委員	中本氏は、お手伝いしながら全国を旅する「おてつたび」のコーディネーターをなされていたのではないですか。
(事務局)中本	してはいいです。「おてつたび」というサービスがあるというのはフェイスブックにあげました。
(事務局) 近平補佐	八幡浜市などの産地などは、系統側で日を特定してまとめて呼べるのでいいですが、愛南町では受入れ施設の課題もあり、町外等から人を一気に呼び込むのは難しいと考えています。
小野山委員	町で収穫クーポンとか発行できればいいんですけどね。
(事務局) 近平補佐	「愛媛お手伝いプロジェクト」のクーポン活用について、町内の登録店としては、フジと三原産業で使えるみたいです。
小野山委員	「愛媛お手伝いプロジェクト」の活用は、愛南町の場合へき地なので、日帰りが厳しいことを考えると使えないのではないのでしょうか。

発言者	発言内容
(事務局) 近平補佐	<p>ですので町内のワーカーを増やせば良いのでは、という提案です。</p>
吉田委員	<p>ぜひ公務員にも登録してもらって。八幡浜市などはその動きが早いですね。</p>
(事務局) 近平補佐	<p>丁度、今朝の日本農業新聞でも公務員の副業で収穫を認める記事が出てはいました。収穫作業の人手不足は、全国どこも一緒なので、公益性の確保があればNGではないということです。</p>
吉田委員	<p>「愛媛お手伝いプロジェクト」の活用も面白いかもしれません。</p> <p>地方銀行等へも、うまく声を掛けられればいいですね。</p>
(事務局) 近平補佐	<p>最近では企業 CSR など社会貢献もあるので、愛南町内でうまく声掛けできれば、労働力になると思います。</p>
	<p>担い手関係の総括として、園地継承や受入れの課題を整理すると、ファーマーサポート事業はどちらかというと、Uターン者向きです。研修修了後に親の園地を受けたり、その期間中にタイミングがあればリタイア園地を受ける位置付けが良いのかなど。地域おこし協力隊などIターンに近い方は、農の雇用事業などの活用で、一度法人に入って営農をめざすような位置付けも良いのかなど。要はI、Uターン者の仕分けも考えたほうが現実的かなと考えています。</p>
(事務局) 近平補佐	<p>(参考資料をもとに、農の雇用事業等について説明)</p>
(事務局) 近平補佐	<p>あと、リタイア園地のリスト化については、以前行った調査では全く反応がなかったのですが、改めて調査をかけるようにします。御協力の程よろしく申し上げます。</p>
	<p>あと、ファーマーサポート事業の研修生が来年度は1名の予定です。参考資料にチラシを添付しておりますが、このチラシを先月全戸回覧しました。しかし、問合せは1件も無いという現状です。周囲で農業に興味ある方がおられましたら、町、JAに連絡、紹介いただければと思います。</p>
(ファシリテーター)	<p>②柑橘営農を支える「インフラ整備」</p>

発言者	発言内容
孝野委員	次に、インフラ全般について事務局よりお願いします。
事務局 (近平補佐)	生産人口の減少で、生産効率が上がる園地が必要との意見が多いです。先般、青年農業者協議会が視察した JA えひめ中央が実施した大規模な基盤整備や平坦な農地の園地化等を実施して欲しい声が挙がっています。以前、南レク未利用地を活用したモデル園等の話もあるが、町は、農地所有ができないため、JA えひめ南や生産団体等が実施主体にならないと厳しい現状です。省力化でいえば、防風林の管理、園内道整備も課題としてあります。10年後を見据えた省力化できる園地の在り方についての意見を伺いたいと思います。
(ファシリテーター) 孝野委員	青年農業者協議会が視察(松山市下難波地区／農地中間管理機構関連農地整備事業で実施された大規模な基盤整備)されたとのことですが、向田委員どうでしたか。
向田委員	サッカー場がポンポンとある感じでした。平山地区と比べれば羨ましいですね。
(ファシリテーター) 孝野委員	普通に山を切り開いての対応は地権者も多いですし難しいですよ。
菊池委員	<p>視察先の大規模整備は、JA えひめ中央が取りまとめを行っています。農家の意向を JA 側が聞いてまとめている事例が多いです。下難波地区は、高齢者が多く、担い手が不足するという現状があります。その中で、JA えひめ中央は、独自に実習農場を持って担い手育成をしています。その修了生の一部が、その園地を持つという形になっています。事業としても8割を集積させる必要があります。JA えひめ南がリーダーシップを持ってこのような事業を進めていくのは、現実的には難しいとは思いますが、地区のリーダーシップを発揮するような話合いの場は、大切だと思います。</p> <p>愛南町でも例えば平山地区でやるなら、行政とか地区のリーダーとか、県の土地改良、農地整備課が一体となって、なんらかの話合いの場を設けることが第一歩としては大事だと思います。</p>
(ファシリテーター)	津島町の畑地団地とか、山を飛ばして希望者で園地を基盤整

発言者	発言内容
孝野委員	備し、大変だったという話も聞きました。御意見ございませんでしょうか。
吉田委員	<p>個人的に農地集積して造成とかしました。もっと集積したかったんですが、地権者のこともあるので。先般のヒアリングでも、役場などは信用力もあるし、サポートして欲しい話はしました。</p> <p>(株)日本農業という会社があります。慶応大学13人、東京大学2人が農業法人を立ち上げ、青森にリンゴの会社を創っています。5年で100ha、10年後には6,000tつくるということで、まさに10年後に愛南町の現在を創ってしまう計画です。縁もゆかりもない人達が青森に行ってどうやって作るんだろうと。</p> <p>丁度、先週、香川の15haのキウイ農地を集積したとのことで、縁があって呼ばれて、立ち上げについて聞いたら、チームをつくって、1件1件地権者にお願いに行ったとのことでした。中には怒られて3時間ぐらい正座されたケースもあったそうです。10人ぐらいそういうのをやりながら全部回ったそうです。それを聞くと、やはり民間で動かないといけないのかなと感じたところでした。</p> <p>ミカンにも参入したいと言っていたので、優秀な人に来てもらうのも有りなのかなと思います。彼らは資金を集める力もありますから。</p>
(事務局) 岸本補佐	自治体が誘致したのではなく、その人達は自ら選んで来られたのですか。
吉田委員	<p>留学経験のある方が集まっています。彼らは、東南、東アジアを周った時に、リンゴのマーケットがあることに気付いたみたいです。日本のリンゴは優秀で、ミカンみたいに味のばらつきも少なく、リンゴの輸出をしていると、青森のリンゴが足りなくなって調達先がなくなっただけです。そこでどうしようかとなったとき、そこで初めて農家に現状を聞いて、3年前かな、リンゴの苗木の無料配布事業、農家を助けるという形でやっていたのを知っていて、2、3万本を無料で配布したそうです。それでも、苗木の行き先を見たら、課題はそこじゃないぞと。全体的な労働力や高齢化とか問題は一緒ですよ、結局、自分たちでつくる手法を選んだそうです。彼らはスケール感もちがうので。</p>

発言者	発言内容
	<p>彼らはタイにマーケットを創りたいそうです。タイでもイチゴとか生産していますので、2040年には日本の人口も減ってマーケットも労働力も減るので、東南アジアでつくって、逆に日本に輸出する形で事業展開を考えています。最近は、優秀な方達が農業に参加しています。その先輩などは、トマト農家で40億とか、香川でブロッコリー72haとか、どんどん参入しています。その方達は地域のリーダーにもなっています。</p>
(事務局) 近平補佐	<p>基盤整備でいうと、そういうチーム等で要望が挙がってくれば事業としては不可能ではないので、小野山委員が言われるような基盤整備については、一例として「農地中間管理機構関連農地整備事業」があります。</p>
(事務局) 近平補佐	<p>(参考資料の農地中間管理機構関連農地整備事業の説明)</p>
(事務局) 近平補佐	<p>地域、チームとして生産者等から要望が挙がってくれば支援の検討も出来ます。12月2日には、青年農業者の勉強会もあると聞いていますので、課題として挙げてもらって機運にしていただければとも思います。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>次の設問をお願いします。</p>
事務局 (近平補佐)	<p>(今後の品種導入) 河内晩柑は、導入して50年以上が経ち、生産量や高木化による作業性の低下が課題となっています。また越冬による凍害リスクも高まっています。今後の品種導入(現状維持、品質向上、晩柑への改植、他の優良品種への転換等)についてどう考えますか。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>河内晩柑も50年経つ園地もあります。別の品種に替えられるという方もおられますか。</p>
原田委員	<p>古い木は、新しく河内晩柑に入れ替える予定ではあります。改植事業があると思います。</p>
(事務局)	<p>(参考資料より、改植事業について説明)</p>

発言者	発言内容
近平補佐  (事務局) 近平補佐	<p>苗木補助の話もありましたが、2a 以上から活用できる果樹経営支援対策事業の活用を検討していただければと思います。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>今年の1月の凍害みたいな被害は避けようがないですね。話によると、町内の一部で被害があったと聞いています。</p>
金繁委員	<p>改植に当たって苗がありません。指導員に聞いても、植えたくても苗がないと聞きます。河内晩柑もありません。穂木でできればいいのですが。特に2年生の苗がないと聞いています。苗木屋もつくらないです。</p>
松田委員	<p>愛南町は、甘夏や河内晩柑など黄色いみかんが中心だと思います。</p>
下田委員	<p>そのまま河内晩柑です。</p>
吉田委員	<p>1.6ha 造成しています。うちは苗木をストックしていて、5年生の木があります。5年生の木は補助対象外なので、補助受けるかどうか迷ったのですが、とりあえずは補助なしでやろうかと考えています。</p>
小野山委員	<p>果樹経営支援対策事業は、設備投資でも使えますけど、要件が厳しくなって、業者に入札してやらさないと補助金の対象にならないです。なので、点滴灌水とか防風ネットとか一気に申込がなくなったのではないですか。また受粉樹は、補助対象外です。もう少し先を考えた制度設計にして欲しいです。</p>
向田委員	<p>そのまま河内晩柑を増やす予定です。</p>
酒井委員	<p>人手のこともありますし、収穫期も決まっているので、増やせないです。植えた木の中で、美味しいもの、美味しくないものがハッキリしてきたのもあり苦労しています。大変なところは減らして、河内晩柑は確実なところだけを残していきたいです。</p>
木村委員	<p>無謀な計画を立てています。河内晩柑は、老木になったので</p>

発言者	発言内容
	全部切りました。ここに、紅マドンナと 48 号に植え替えようかなど。私の場合、補助金は使えないのでできるところだけ残します。
吉田委員	紅甘夏と紅八朔を植えます。
孝野委員	温州を 30a 程植えたいなどは思っています。
(事務局) 近平補佐	(共同選果等設備の在り方) 共選の大規模な設備更新は、難しいとのこと。選果機もかなり古くなって、いつ壊れてもおかしくないとの声も聴きます。共同選果等の設備の在り方についての長期展望はいかがでしょうか。
金繁委員	味楽共選については、豪雨災害で新しくやったものもあります。
山木委員	難しいでしょう。出荷数も減っていて、今の設備を大事に使わないといけない。
松田委員	古くなってきついですよね。だましましです。メーカーではない直し方をしないと。共同の選果場といっても、たぶん使えないのではないかと思います。集約となると皆が移動して使わないといけなくなりますので。
(ファシリテーター) 孝野委員	選果施設に補助金はあつたりしないのでしょうか。それは農協単位なのでしょうか。
(事務局) 近平補佐	補助事業はあります。大規模な選果設備等は、5W1Hの整理が必要です。誰がいつどこで要望するのか。例えば「強い農業づくり総合支援交付金」の活用があります。
(事務局) 近平補佐	(参考資料の強い農業づくり総合支援交付金について説明)
(事務局) 近平補佐	例えば、第一マルエムさんなどは、共選のような使われ方をされているので、個人負担はありますが活用できると思います。あと、個人向けの選果機等は県単事業があります。

発言者	発言内容
(事務局) 近平補佐	(参考資料の県単事業について説明)
(事務局) 近平補佐	これについては、毎年要望調査をするようにしています。
原田委員	草刈り機とかはないですか。
(事務局) 近平補佐	汎用性の高い草刈り機、軽トラ等は補助事業がありません。
原田委員	現在、ラジコン草刈り機をインターネットなどで見ているのですが、そういうものの補助があれば。最近はリモコン操作でできたりするものもあるので、そういう面で伸ばせていければ仕組み自体で伸ばせていける考えは。最近は傾斜に対応した小型のモノも出てきているので。
事務局 (近平補佐)	作文次第だとも思います。通常の草刈り機は色々使えるので難しいですけど、ここの園地でこのようにしか使えないとか説明できるのであれば可能性もあるかもしれませんので、補助を探してみます。
(ファシリテーター) 孝野委員	(スマート農業) 柑橘におけるスマート農業、IT化の余地や方策はいかがでしょうか。
小野山委員	以前、みかんサミットにも行って来ましたが、効率化など考えると、そもそも植える前から設計してやらないと意味がないと思います。段畑のような環境だと難しいですよ。乗用草刈り機が入らない時点でスマートどころではないと思います。
木村委員	何をスマート化、IT化するのですかね。
(事務局) 近平補佐	例えば、農家さんが持たれている暗黙知ですね。特に河内晩柑の場合、園地によって味が違うなどもありますから、本人だけが分かっている情報もあると思います。継承するにあたって品質確保を実現できる数値化とか見える化が果たしてできるか

発言者	発言内容
吉田委員	<p>どうかのアイデア、省力化できる技術などでしょうか。</p> <p>現在、土壌条件を一緒にしようと造成していて、土を全部剥いで、田んぼの基盤整備みたいにやっていますがコストがかかり過ぎますね。ダンプを借りて大規模にやっていますが先が見えないです。あと、機械化とかスマート農業に対しては、効率の良い園地にしようと思ひやっています。</p>
木村委員	<p>色々なセンサー等、たくさん付けないといけないと思うのですよね。</p>
菊池委員	<p>一番の問題はコストなのですが、一部導入されているのは家庭用選果機です。画像処理で正品、良品を見分けるものです。県内の民間企業と連携して八幡浜市のほうで入れています。あと、スマホを使った点滴灌水などで制御する。水田では水管理を制御する。その程度の簡単な ICT 化ですね。自動運転などとなると先程のように基盤整備が必要になってくると思います。選果機については、保内で展示していますのでもし機会があれば。</p>
西崎委員	<p>ドローンは起爆剤になりませんか。</p>
菊池委員	<p>ドローンもそうですね。登録農薬が少ないのがネックです。水稻について技術は確立していますが、果樹は葉裏にかからないといけないので。黒点病対策ではある程度、結果が出ていますけど実用的ではありません。あとは登録農薬をいかに増やすか。愛南町では1件だけドローン防除がありますが、資格も必要になりますので。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>③愛南柑橘の価値を高める「ブランド化・六次産業化」 (河内晩柑等全般) 次の設問をお願いします。</p>
(事務局) 岸本補佐	<p>先日、個別ヒアリングで個人的にびっくりしたのが、河内晩柑の名称にあまり拘りがなかったか、生産量日本一についても関心がないような御意見が多かったのが驚きでした。農業支援センターでは、河内晩柑の販売促進とか認知度向上に取り組んでいるのですが、私どもからすると愛南町産の河内晩柑として</p>

発言者	発言内容
	<p>捉えて、愛南町と河内晩柑を紐付けて売り込んでいきたいと考えています。そんな中、品質基準の設定とか、名称統一は、大変難しいという現状に立てば、何を売っていくのかというところでいうと、50年の歴史を持つ産地として優位性を訴求していくのが有効な手段なのではと考えています。皆さんの意見をお伺いしたいと思います。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>名称に関しては多数あります。皆さんはどのような考えでされていますか。</p>
秋山教諭	<p>マルエムフルーツアイランドへの出荷は別として、研究とか外に出ていくときは、「愛南ゴールド」の名称を使っています。愛媛県、愛南町と愛がついていますので、私がいる間はこれで行こうと思っています。</p> <p>話は別になるのですが、GAP 認証の件で8月にオリンピックの関係で選手村に、愛南ゴールドを届けることができました。皆さんのおかげでありがとうございました。子供達も自信が持てました。この時期にはほかのモノがないので、愛媛県でも鯛と河内晩柑。学校では伊予農業高校の米というところで僅かでした。ミカン類はなかったのでPRになりました。ただうちの現状をみますと、農業科で1年生が18人、うち女子が14人という状況で、初めて男女数が逆転現象となりました。今は加工のほうを中心にここ5、6年やってきたのですが、コロナでここ2年は外でのPRができていません。興味のある生徒を一人でも多くつくっていきたくて考えています。コロナの影響ではないですけど、地元に残る子もいます。若干、水産のほうに流れる子もいます。その子たちは、1年生の頃から水産に行きたいという意向もありました。その辺も変えながらうまく農業でやっていける部分も、色々なところで成功されている方、チャンスもあるんだよということも教えていきたくて思います。またお力を借りたいと思いますので今後ともよろしくお願いします。</p>
金繁委員	<p>うちは味楽共選なので「宇和ゴールド」の名称で昔から使っています。町のブランドとしては、愛南ゴールドでいいと思います。例を挙げると、原田委員のところは丸協市場の方から河内晩柑の内皮まで食べられるという評価で間違いのないとの位置付けをされているみたいで、一目を置いているようです。そう</p>

発言者	発言内容
松田委員	<p>いうメリットが愛南町でも盛んになればと思います。</p> <p>名称統一は、無理だと思っています。商品名という形で呼ぶしかないのかなど。カッコを付けて河内晩柑という使い方ですね。その上に愛南町産を付ければ済むのかなど。これだけ収穫期間が長い柑橘もないので。さすがに名称統一は難しいと思います。</p>
下田委員	<p>うちは無茶茶園に出荷しているので、ジューシーフルーツという名称を使っています。個人的には、愛南ゴールドが有名になったらいいなと思っています。</p>
吉田委員	<p>基本的に河内晩柑で売っていますが、先方が愛南ゴールドで欲しいと言ったら変えますし、特に拘りはないです。えひめマドンナ「カッコ」とか、「カッコ」戦略を結構やっているのです。それより味に拘ったほうが良いと思います。</p>
小野山委員	<p>美生柑の管理について、個人的には海賊版があればある程、認知度が上がっていくので。その代わり、マルエムのPR 不足なのですが、美生柑で検索してもマルエムも美生柑も出てこないのです。マルエムとしてはもっと戦略を考えるべきかなと思います。</p>
向田委員	<p>小野山委員と同意見です。</p>
原田委員	<p>うちは河内晩柑で売っています。愛南ゴールドで売りたいのであれば、「愛南町」も一緒に PR できれば良いなと感じています。</p>
酒井委員	<p>うちも河内晩柑という品種名で売っています。ただそこまで名前に拘りはないです。</p>
木村委員	<p>愛南ゴールドという名称だと、北海道等に送った場合に困るみたいですね。愛南ゴールドだと中身がミカンなのかどうか分からない。河内晩柑と書けば、ミカンだと分かるので。愛南ゴールドの後に「カッコ」で品種名を書くのが良いと思います。</p>
西崎委員	<p>本会議の第1回目からの論争で、名称統一は無理なんじゃない</p>

発言者	発言内容
	<p>いかということですよ。愛南ゴールドと河内晩柑が同じだとイメージできれば良いのではと思います。もともと河内晩柑を盛んにするという事は、人口も減りますし地域活性化の視点も大きかった気がして、愛南町河内晩柑、愛南町美生柑。どれが何のミカンか分かれば拘らなくても良いと思います。</p>
山木委員	<p>愛南ゴールドで統一できれば宣伝効果もあるなど思っていたのですが、拘りなども考えると名称統一は無理だと思うところです。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>自分事ですけど、以前、名称が「愛南ゴールド」の投票で決まったじゃないですか。あの時、変な名前だと思いながら、使用する名称は全て愛南ゴールド(河内晩柑)にしたのですよ。高島屋難波店でも愛南ゴールドで売っています。でも宅配のお客さんから美生柑ありますかとかはあります。使ったらアウトですかねという感じなのですが。いちいち説明するのも嫌で、「はい、あります。どうぞ」という感じなのですが、細かくは、名前には興味ないのですが、やはり「愛南町産」が分かるような使い方を今はしています。</p>
小野山委員	<p>「美生柑」の縛りのせいで、ほかの栽培体系に踏み出せていない現状もあります。関東は、知名度は増えてはいますが。</p>
(事務局) 岸本補佐	<p>皆さんの話の中で、名前よりも味という話もできました。農業支援センターで河内晩柑を栽培しているわけではないので、味の向上については難しいのですが、その中でも愛南町の河内晩柑の注文が伸びていけば良いなと思っています。また皆さんのお知恵をお借りできればと考えていますのでよろしくお願ひします。</p> <p>もう一点です。ブランド化、6次産業化にしても河内晩柑そのものの認知度向上が必須条件だと考えていて、農業支援センターでは、県内外で販売促進、情報発信を行っています。今年の7月にあまり流通していない東北の仙台市に行ってきて、手売りで販促を行いました。試食は、難しい状況だったんですけど、あの時期に国内産の柑橘が売られているのは珍しくて、海外製のネーブルを持っているお客さんが、わざわざ売場に戻して、名前も知らないのに河内晩柑を買ってくれたケースもありました。また、前日に買った方が「おいしかった」と次の日も</p>

発言者	発言内容
	<p>リピーターで買ってくれたケースもありました。こういう活動を地道に続けていったら良いのかなと。そういう活動が少しなりとも生産者に還元されて、所得向上ですとか、生産意欲の喚起に繋がればと期待して活動しているわけですけど。皆さんがそういう面で行政に「こういうことやったら」とか、「こういうところにお金使って欲しい」とか、生産者のためになるような事がありましたらお示しいただきたいと思います。</p>
(ファシリテーター) 孝野委員	<p>河内晩柑。皆さんも同じだと思いますが、かなりお客さんも喜んでいただけます。名前が広がるのは良いことだと思います。行政に期待することとかありましたら。加工品とか展開されている南宇和高校はどうですか。</p>
秋山教諭	<p>これまでも行政にはやっていただいたのですが、県内外、販売には、子供達も飛んで行きたいので。農家さんもこれからは高校生を力を貸して欲しいとかあれば、我々も協力していきたいなと思っています。</p>
金繁委員	<p>特に意見はありません。</p>
松田委員	<p>これと言って特にはないのですが、イベントに農家を連れて行くなど、詳しい話ができる人がいれば良いと思います。</p>
下田委員	<p>よく分からないです。</p>
吉田委員	<p>特にはないですが、メディアとか紹介あれば120%対応しようと思っています。</p>
小野山委員	<p>もう一度、後継者というか、次世代に意向調査をお願いしたいと思います。</p>
向田委員	<p>特にはありません。</p>
原田委員	<p>市場頼りで、販売促進までは考えていません。</p>
酒井委員	<p>自分のところのお客様に愛南町のPRができればなと思っています。買われる方が高齢化していて、何回も電話かけてこられたり対応が大変な時もあります。お客さんが減っていくのが</p>

発言者	発言内容
木村委員	<p>心配です。色々なところで河内晩柑の宣伝をしてもらえたら嬉しいです。</p> <p>「ためしてガッテン」等のテレビ番組に出るとものすごい反響がありますね。あとは女性を活用した河内晩柑大使ですかね。メディアの露出度を高められるような施策ができればと思います。吉田委員の NHK での反響のような、ああいう放送が再びできれば良いなと思います。</p>
吉田委員	<p>今なら数億円ぐらい受けられるのでしょうか。</p>
西崎委員	<p>昔はクチコミが強かったのですが、やはり木村委員が言われたように一発CMとか、メディアの活用があれば随分違うと思います。</p>
山木委員	<p>特にないです。</p>
(事務局) 岸本補佐	<p>補足です。認知度向上については、参考資料にいよココロザン大学に委託して愛媛県の新規採用職員約 200 人に、河内晩柑の知名度を上げるためのアイデア出しをしていただいた資料を添付していますので参考にいただければと思います。</p>
岸本補佐	<p>その他、全体を通してほかに御意見はありませんか。</p>
松田委員	<p>資料で委託搾汁の経費について、予算と支出済み額に差があるのはなぜですか。</p>
(事務局) 岸本補佐	<p>ズレがあるのは、初めて実施する事業で想定できにくいところもあったのですが、1回に搾汁するのが3t ぐらいだったのですが、1回で5t ぐらいの原料調達もできて搾汁についてもそれに対応できたので、往復の輸送費について回数が減って抑えられた面もあります。あと、冷凍保管料とか受注時の商品配送料(特に注文がない)なので、300万円ぐらいの予算に対して、15万円ぐらいの支出しかありません。保管は、まだ在庫を抱えていますので、月々の保管料はかかっていくことになり、注文があったら商品の配送料もかかっていくことになり、売れなかったら赤字になってしまうのですが、商談がうまくいけば、10t 強の果汁の販売が見込め、それで収支がトントンぐら</p>

発言者	発言内容
岸本補佐	<p>いになります。</p> <p>それでは、今回ファシリテーターをしていただいた孝野委員お疲れ様でした。御礼をこめて皆さん拍手をお願いします。</p> <p>活発な意見交換になったと思います。課題に向けてのヒントもいただき有意義な会になったと思います。今後とも皆さまのお力添いをいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして令和3年度第1回愛南柑橘営農環境改革推進協議会を閉会したいと思います。</p>